

除染技術の開発		施策番号088
福島復興再生基本方針における該当箇所		府省庁名
頁	48	農林水産省
章	第3	
節	2	
項	(6)	作成年月
目	⑤(v)	平成25年5月
予算措置の状況		
【平成25年度】 ・農地等の放射性物質の除去・低減技術の開発 213百万円【復興特会】		
施策の内容		
○高濃度汚染地域における農地土壌除染技術体系の構築・実証 ○高濃度汚染農地土壌の現場における処分技術の開発 ○汚染地域の農地から放出される放射性セシウム動態予測技術の開発		
施策の進捗状況及び今後の予定		
○地目や放射性セシウム濃度に応じた農地土壌の除染技術の適用の考え方を平成23年9月14日に公表し、その具体的な作業手順や留意事項等を取りまとめた手引きを平成24年3月2日に公表。 ○農地の除染技術の高度化、農畜産物への移行低減技術の開発等を実施し、その結果を平成24年5月22日に公表。 ○渓流水中の放射性セシウム濃度を測定し、融雪期における結果を平成24年6月12日に、梅雨期における結果を9月21日に、8月から10月における結果を12月20日に公表。 ○福島県飯舘村で開催された農地除染作業セミナーで、開発したシールドキャビン付きトラクタ等を平成24年7月10日に公開実演。 ○現場での農地除染の効果的な実施のため、反転耕が実施できる条件、事前の調査法、新たに開発したブラウによる反転耕の実施法等を取りまとめた除染用反転耕マニュアルを平成24年8月31日に公表。 ○表土の削り取り等による除染が困難な水田向けに開発した「水による土壌攪拌・除去技術」の除染効果を平成25年2月19日に公表。 ○除染農地土壌の減容化、植物残さや雑草、落葉等を安全にペレット化する技術の開発し、平成24年12月21日に報道関係者を対象に設備の公開、概要説明を行った。 ○現在、高濃度汚染地域における農地土壌除染技術体系の構築・実証、化学的、生物学的手法を用いた高濃度汚染のうち土壌の現場における処分技術の開発、汚染地域の農地から放出される放射性セシウム動態予測技術の開発を行っているところ。開発・実証を終えて現場に適用できると判断された技術については、研究成果を除染実施官庁である環境省に受け渡し、順次現場への導入を図ることとしている。		

水生生物中の放射性物質の挙動等の解明		施策番号089
福島復興再生基本方針における該当箇所		府省庁名
頁	48	農林水産省
章	第3	
節	2	
項	(6)	作成年月
目	⑤(v)	平成25年5月
予算措置の状況		
【平成25年度】 ・海洋生態系の放射性物質挙動調査事業 190百万円【復興特会】		
施策の内容		
○被災地の沿岸・沖合水域において、食物連鎖等を通じた放射性物質の濃縮の過程等の挙動を明らかにするための科学的な調査を実施。		
施策の進捗状況及び今後の予定		
○被災地の沿岸・沖合水域において、食物連鎖等を通じた放射性物質の濃縮の過程等の挙動を明らかにするための科学的な調査を実施。 ○今後、海水、海底土等の環境試料を含む様々な試料の放射性物質濃度の分析、海流等の把握、更には飼育実験等を行い、これらを総合的に解析することによって、水生生物中の放射性物質の挙動とその要因を明らかにする予定。		